

決算説明資料

2025年3月期 第2四半期

株式会社ユビキタスAI

代表取締役社長 長谷川 聡

2024年11月14日



Ubiquitous AI

© 2024 Ubiquitous AI Corporation. All rights reserved.
This presentation is for informational purposes only. Ubiquitous AI Corporation makes no warranties, express or implied, in this summary.

- 2025年3月期 第2四半期 業績 概要
- セグメント別概況と注カテーマ
- トピックス

2025年3月期 第2四半期 業績 概要

2023年10月に子会社化したグレープシステム社（GS社）の売上が寄与し、連結売上高は対前年同期比で+40.7%の大幅増となっており、順調に推移。営業損益については、一部顧客のロイヤルティ売上減少、M&Aに伴う人件費、会社規模拡大に伴う内部統制の整備・運用など販管費が増加し、対前年同期比で営業損失額は増加

連結売上高：1,748百万円
（対前年同期比：40.7%増）

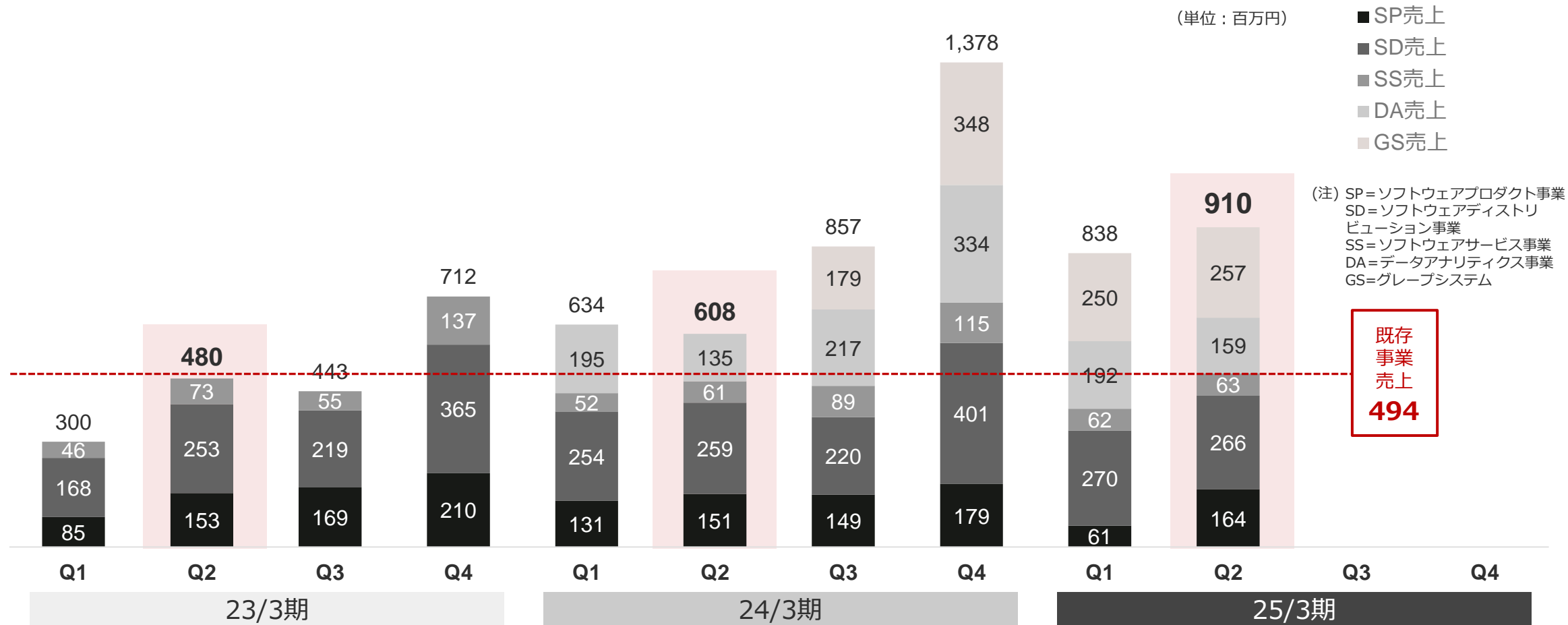
連結営業損失：98百万円
（前年同期営業損失：73百万円）

※GS社の業績値はデータアナリティクス事業以外に按分

事業セグメント	(単位：百万円)	25/3期 Q2累計	24/3期 Q2累計	概況（対前年同期比）
ソフトウェアプロダクト事業	売上高	352	283	一部既存顧客製品の生産終了・計画変更によるロイヤルティ売上の減少により、売上高はGS社売上分が追加となり増加したが、営業損失は前年同期より増加
	営業損益	△76	△26	
ソフトウェアディストリビューション事業	売上高	628	514	既存顧客からのロイヤルティおよび受託開発、既存顧客向けライセンス売上の前倒しに加えて、GS社取扱い海外製品の売上分の追加により、売上高が対前年同期比で増加、営業損益改善
	営業損益	△21	△40	
ソフトウェアサービス事業	売上高	414	113	既存事業の受託開発売上が好調、GS社売上追加が大きく寄与、対前年同期比で売上高大幅増、営業利益増加
	営業損益	5	△0	
データアナリティクス事業	売上高	352	331	一般企業および政府機関へのパッケージソフト売上増、価格改定実施により同水準の売上を確保したが、為替の影響を受け営業損失（前年同期はスポットで発生した大型案件が存在）
	営業損益	△5	△6	

四半期別 売上高の推移

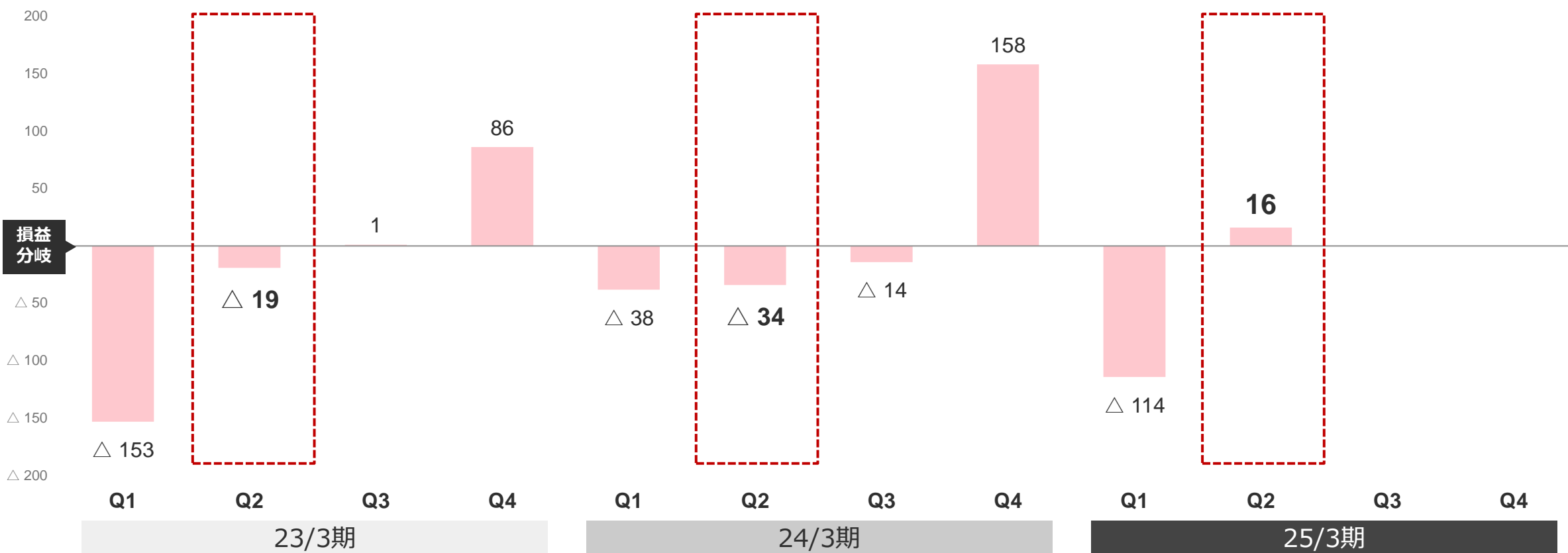
2023年10月に子会社化したGS社の売上貢献があり、QoQ+49.7%拡大



四半期別 営業損益の推移

当期Q2会計期間は、一部遅延していたQ1分のロイヤルティ売上がQ2計上になったこと等が寄与し、16百万円の黒字となった

(単位：百万円)



対前年同期比:セグメント別売上及び利益

2023年10月に子会社化したGS社の売上が寄与し、売上高は対前年同期比+40.7%の大幅増。全セグメントにおいて、対前年同期比で売上高が増加。特にSS事業は+264.8%と大幅増

M&Aに伴う人件費、企業規模拡大に伴う社内整備費用などが増加し営業損失は98百万円となった

(単位:百万円)	25/3期 Q2累計			24/3期 Q2累計		増減額	増減率
	従前のセグメント	グレープシステム	連結	連結			
ソフトウェアプロダクト事業	売上高	226	126	352	283	+69	+24.5%
	セグメント利益	△80	※2 3	※2 △76	△26	△50	-
ソフトウェア ディストリビューション事業	売上高	536	92	628	514	+114	+22.2%
	セグメント利益	△23	※2 1	※2 △21	△40	+18	-
ソフトウェアサービス事業	売上高	125	288	414	113	+300	+264.8%
	セグメント利益	6	※2 △0	※2 5	△0	+5	-
データアナリティクス事業	売上高	352	-	352	331	+20	+6.3%
	セグメント利益	※1 △5	-	※1 △5	※1 △6	+1	-
合計	売上高	1,241	507	1,748	1,242	+505	+40.7%
	営業利益	※1 △102	※2 4	※3 △98	※1 △73	△24	-

(注) ※1 株式会社ライトストーンの株式取得に関して生じたのれんの償却額 19百万円を含めております。

※2 株式会社グレープシステムの株式取得に関して生じたのれんの償却額 27百万円を含めております。

なお、当該のれん償却額は、同社が営むデータアナリティクス事業以外の各事業に按分しております。

※3 上記ののれんの償却額 47百万円を含めております。

対前年同期比:セグメント別売上及びのれん償却前営業利益

積極的なM&Aによる事業拡大に伴い、のれん償却額は増加傾向

「のれん償却前営業利益」は△51百万円となり、前年同期と同水準で着地

	(単位:百万円)	25/3期 Q2累計			24/3期 Q2累計		増減額	増減率
		従前のセグメント	グレープシステム	連結	連結			
ソフトウェアプロダクト事業	売上高	226	126	352	283	+69	+24.5%	
	セグメント利益	△80	※2 7	※2 △72	△26	△45	-	
ソフトウェア ディストリビューション事業	売上高	536	92	628	514	+114	+22.2%	
	セグメント利益	△23	※2 4	※2 △18	△40	+21	-	
ソフトウェアサービス事業	売上高	125	288	414	113	+300	+264.8%	
	セグメント利益	6	※2 19	※2 25	△0	+25	-	
データアナリティクス事業	売上高	352	-	352	331	+20	+6.3%	
	セグメント利益	※1 14	-	※1 14	※1 13	-	+7.2%	
合計	売上高	1,241	507	1,748	1,242	+505	+40.7%	
	営業利益	△83	※2 32	※3 △51	※1 △53	+2	-	

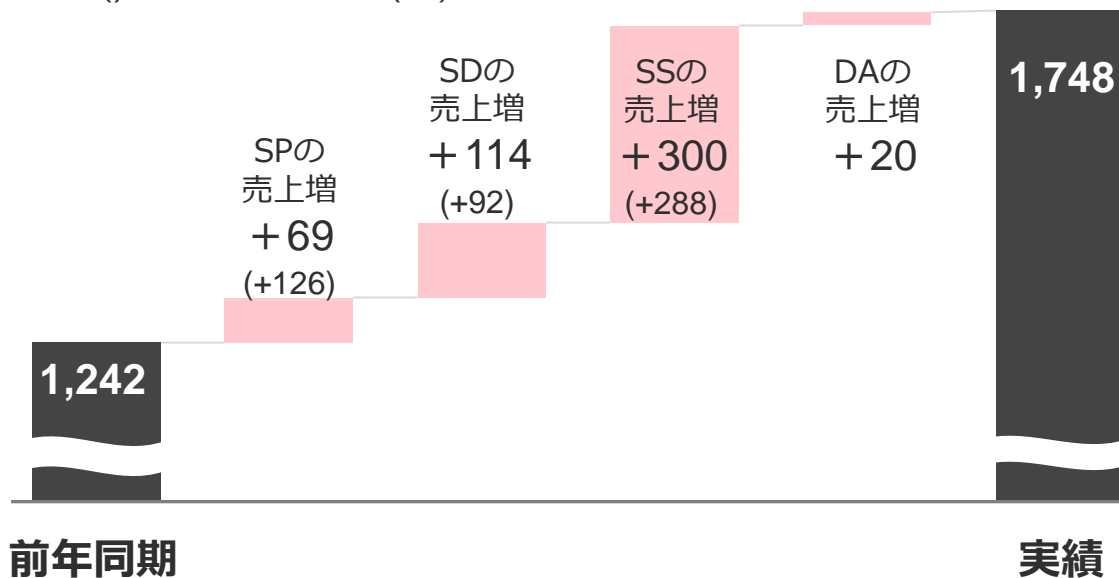
- (注) ※1 株式会社ライトストーンの株式取得に関して生じたのれんの償却額 19百万円を含めておりません。
 ※2 株式会社グレープシステムの株式取得に関して生じたのれんの償却額 27百万円を含めておりません。
 ※3 上記ののれんの償却額 47百万円を含めておりません。

対前年同期比：売上高（セグメント別及び形態別）

事業セグメント別では、対前年同期比で+300百万円と伸長したSS事業が売上高拡大を牽引
 形態別では、GSの売上分が寄与。契約時一時金売上が+165百万円、受託開発売上が+373百万円と大幅に増加し、ロイヤルティの売上減少などをカバー

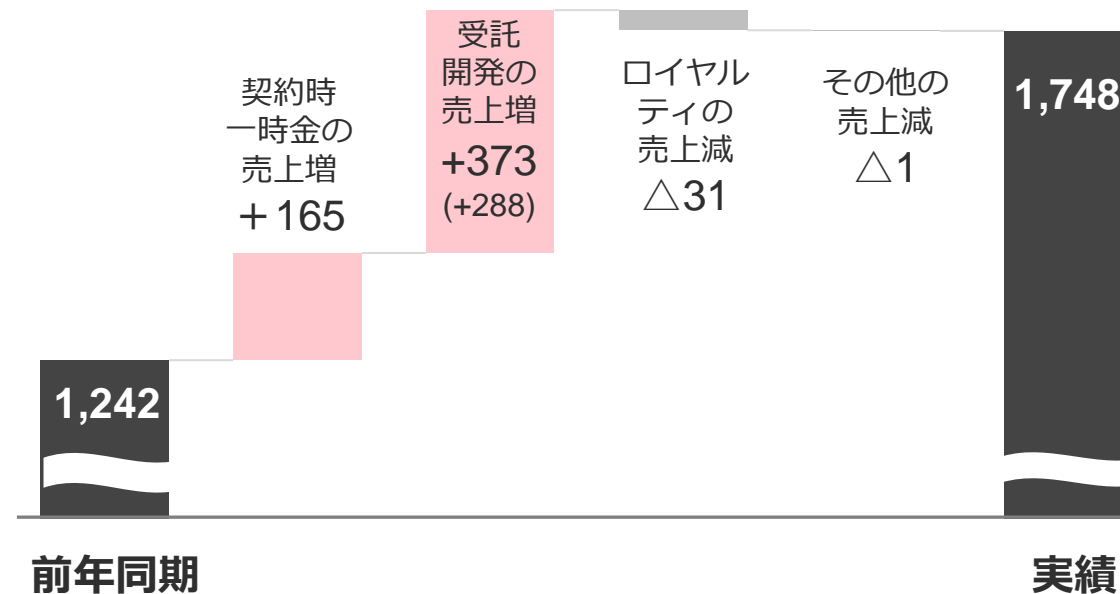
事業セグメント別

(注)SP=ソフトウェアプロダクト事業
 SD=ソフトウェアディストリビューション事業
 SS=ソフトウェアサービス事業
 DA=データアナリティクス事業
 ()内はグレープシステム(GS)の売上
 (単位：百万円)



形態別

()内はGSの売上 (単位：百万円)



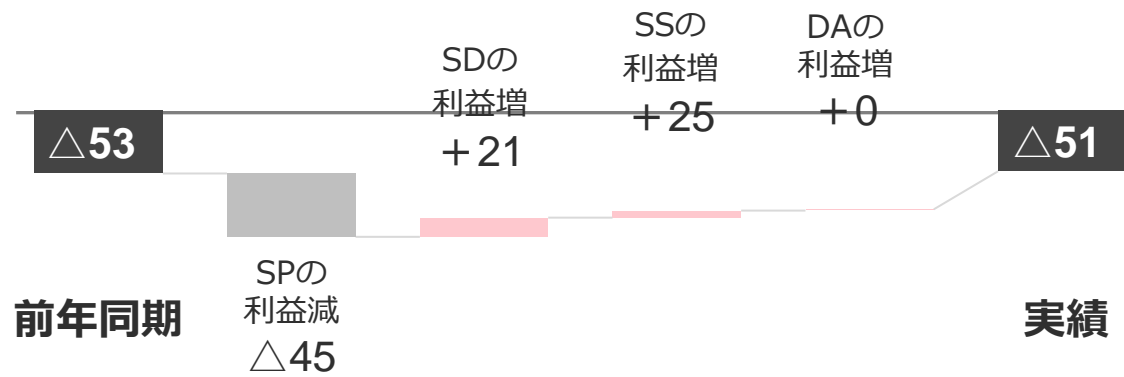
対前年同期比：のれん償却前営業利益（セグメント別及び費目要因別）

SP事業の利益減をSD事業、SS事業の利益増でカバーし、前年同期と同水準で着地
 費目別では、人件費やその他費用（企業規模拡大に伴う社内整備費用など）の先行投資費用の増加が影響

事業セグメント別

(注)SP=ソフトウェアプロダクト事業
 SD=ソフトウェアディストリビューション事業
 SS=ソフトウェアサービス事業
 DA=データアナリティクス事業

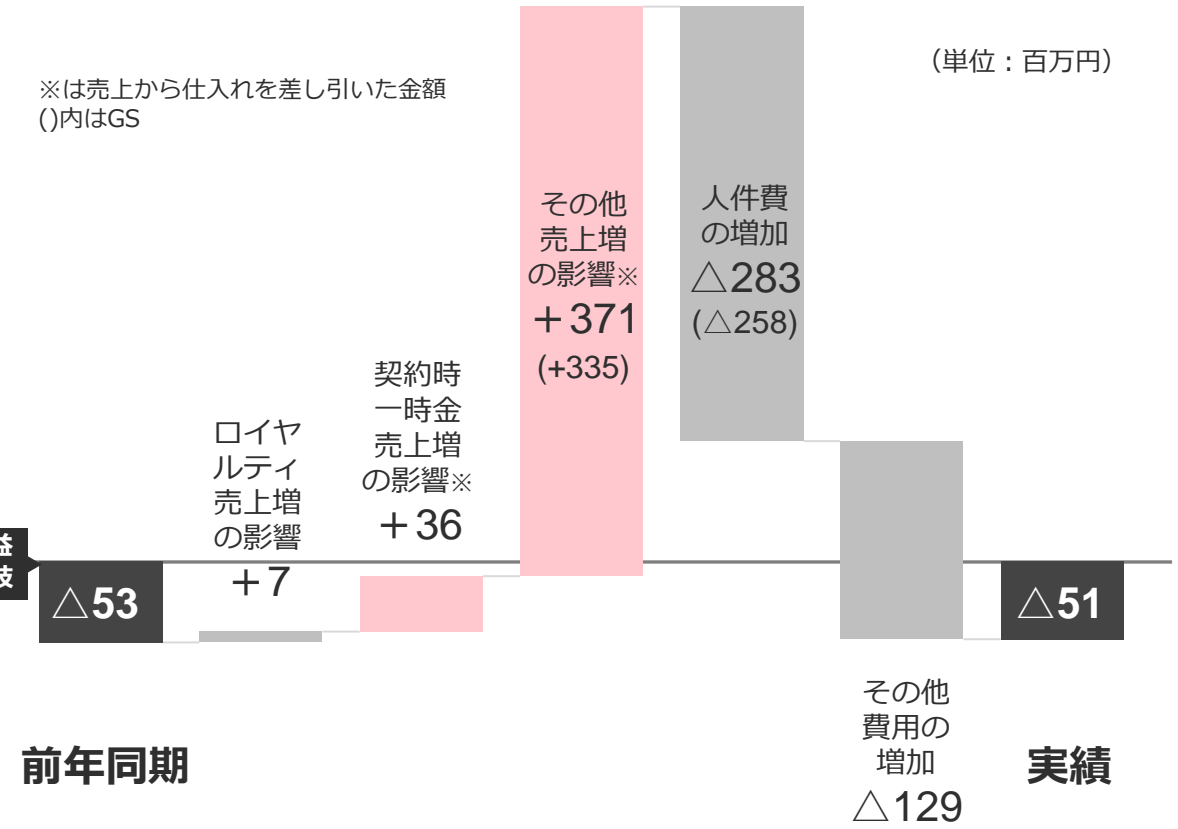
(単位：百万円)



費目要因別

※は売上から仕入れを差し引いた金額
 ()内はGS

(単位：百万円)



対前年同期比：連結損益計算書

2023年10月に子会社化したGS社の売上貢献もあり、対前年同期比505百万円の売上増（+40.7%）

(単位：百万円)	25/3期 Q2累計	24/3期 Q2累計	増減額	
売上高	1,748	1,242	505	
売上原価	1,069	709	360	
売上総利益	678	533	145	
販管費	776	606	170	
営業利益	△98	△73	△24	
営業外損益	△0	10	△10	
経常利益	△98	△62	△35	
特別損益	37	-	37	特別損益内訳
税金等調整前利益	△60	△62	2	役員退職慰労引当金 戻入額 45
法人税等	7	△3	11	投資有価証券評価損 △5
中間純利益 ※	△68	△58	9	固定資産除却損 △2

※中間純利益：親会社株主に帰属する中間純利益

連結貸借対照表（資産の部）

(単位：百万円)	25/3期 Q2	24/3期末	増減額
現金・預金	1,468	1,471	△3
受取手形・売掛金	467	1,050	△582
棚卸資産	41	20	21
前払費用	85	77	7
その他流動資産	24	29	△4
流動資産	2,087	2,650	△562
のれん	395	442	△47
その他固定資産	597	639	△42
固定資産	992	1,082	△89
資産合計	3,080	3,732	△652

連結貸借対照表（負債・純資産の部）

(単位：百万円)	25/3期 Q2	24/3期末	増減額
買掛金	120	317	△197
短期借入金※	41	213	△171
未払金	82	93	△10
契約負債	140	148	△8
その他流動負債	106	191	△84
流動負債	491	964	△473
長期借入金	52	73	△20
退職給付引当金	217	276	△58
繰延税金負債	29	45	△16
その他固定負債	39	39	0
固定負債	338	434	△95
資本金・資本剰余金	2,936	2,936	-
利益剰余金	△809	△741	△68
その他純資産	122	137	△15
純資産	2,250	2,333	△83
負債・純資産合計	3,080	3,732	△652

※短期借入金：短期借入金 + 1年内返済予定の長期借入金

通期業績予想（連結）に対する進捗

(単位：百万円)

	通期 業績予想	25/3期 Q2累計	進捗率 (%)
売上高	4,022	1,748	43.5%
営業利益	40	△98	—
経常利益	38	△98	—
純利益	△22	△68	—

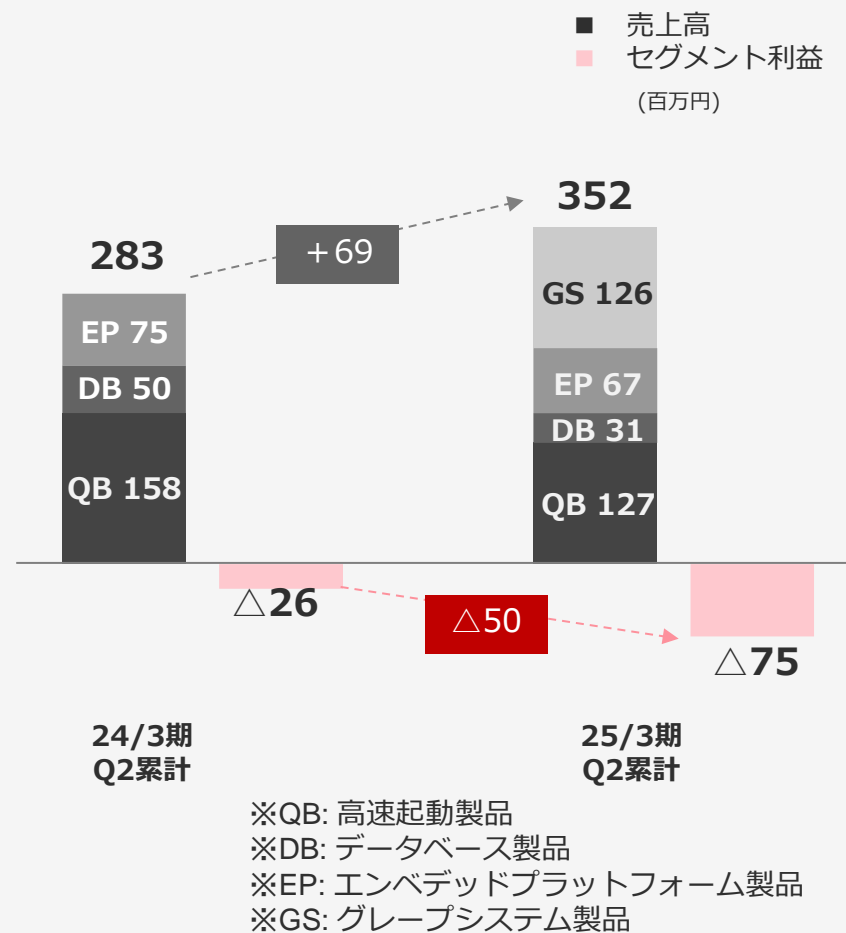
セグメント別概況と注カテーマ

■当期注力テーマ

- 高速起動製品における次世代プラットフォーム対応強化と海外展開による更なる事業成長
- IoT機器の脆弱性に対する懸念の高まりに応えるためのセキュリティ製品の販促・提案強化

■当期事業概況

- 対前年同期比で売上は増加、営業損益は減少
 - 一部既存顧客製品生産終了・計画変更によるロイヤルティ売上の減少
 - GS社売上が追加となり増加
- 製品別概況
 - 高速起動製品：売上高・営業損益ともに前年同期減
 - 既存顧客の一部製品生産終了によるロイヤルティ売上の減少
 - 他製品：GS社売上追加を除くと売上高・営業損益ともに前年同期減
 - 一部既存顧客の製品生産計画変更の影響によりロイヤルティ売上が減少

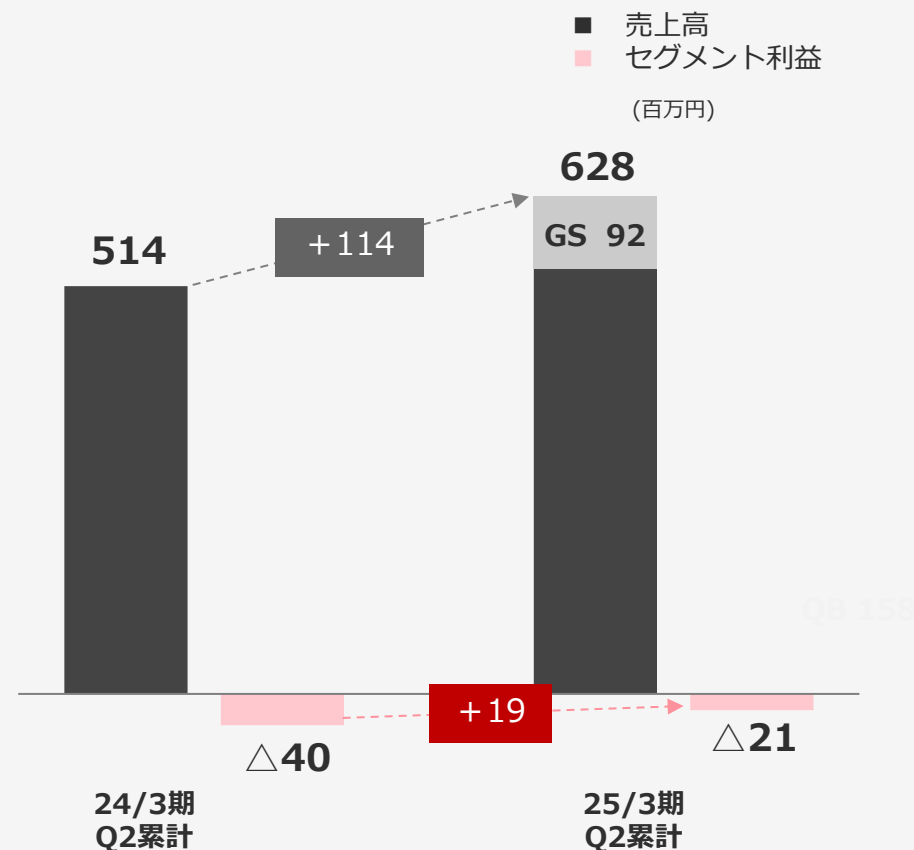


■当期注カテーマ

- ソフトウェア開発品質向上支援ツールの販売推進と、サイバーセキュリティ需要増に対応する脆弱性検証ツール・サービス事業の強化
- 既存の主力製品を中心に拡販展開
- 海外製新商品取扱いを推進

■当期事業概況

- 対前年同期比で売上増加、営業損益改善
 - ・新規顧客への開発ライセンス販売、ロイヤルティおよび受託開発売上の増加
 - ・既存顧客向けライセンス売上の前倒し
 - ・GS社取扱い海外製品の売上分の追加

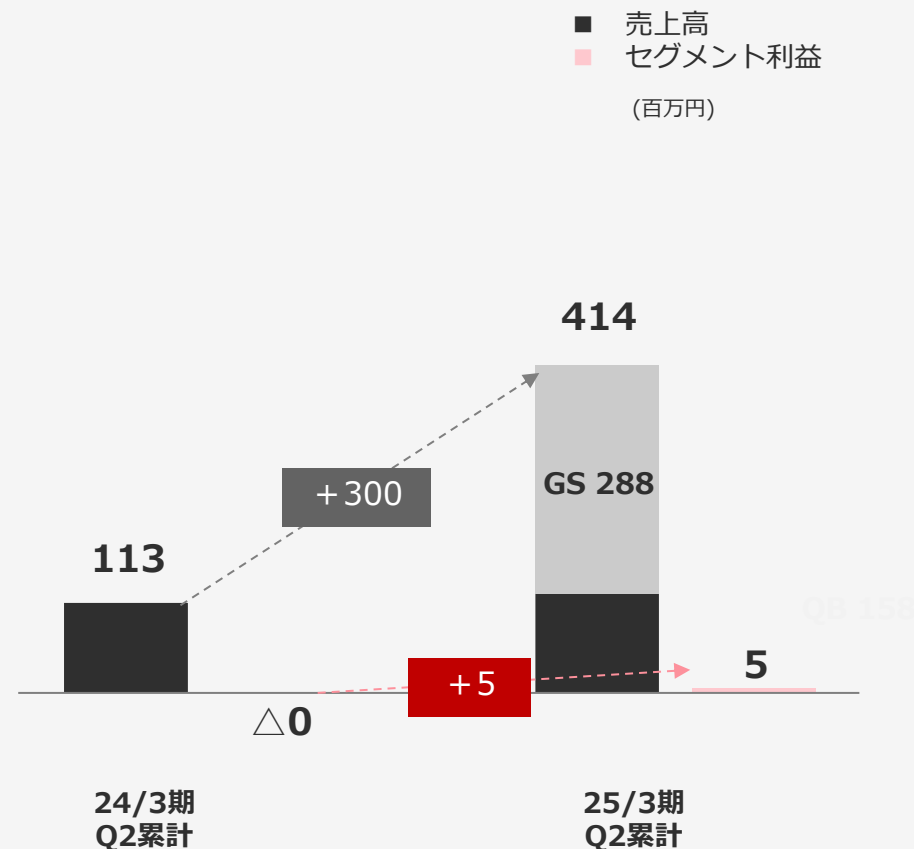


■当期注力テーマ

- 既存顧客との長期的な関係構築による安定した受託開発案件の引き合い
- GS社子会社化に伴う受託開発力強化により、製品販売関連の受託開発、製品販売を伴わない既存顧客からの受託開発案件を積極的に獲得
- 米Gracenote社との密な連携による既存収益の継続的確保と、協業提案による新たな取り組みと、車載機器のCD再生機能搭載率低下による「YOMI」ライセンスの減少を補うためのストーリーミングメディアなど新たな分野へのアプローチや受託開発案件の強化

■当期事業概況

- 対前年同期比でGS社の売上追加により大幅増、営業利益増加
 - 受託開発売上が既存顧客を中心に好調
 - GS社売上分の追加が大きく寄与

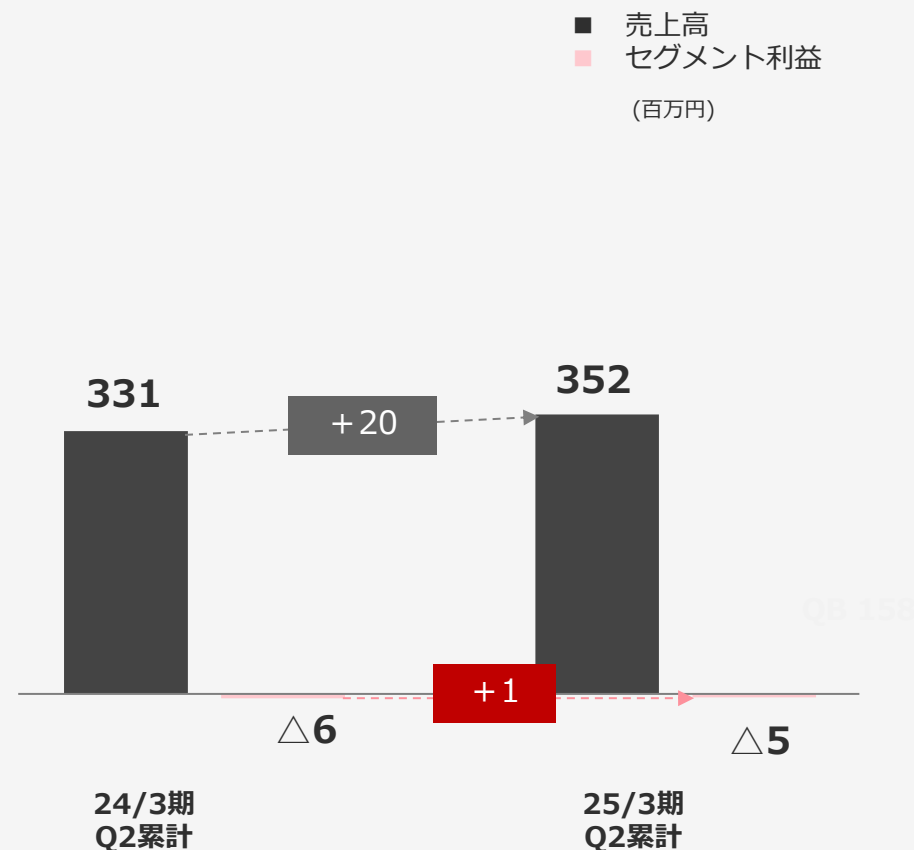


■当期注カテーマ

- 主カソフトウェア製品 (Origin、Stata) を中心とした教育機関、政府研究機関、一般企業への販売
- デジタルマーケティングおよび学会併設展示会による新規販売強化
- 既存顧客への販促強化による、サブスクリプション (年間使用料)、メンテナンスの更新率向上

■当期事業概況

- 対前年同期比で売上増
 - AIによる予測・要因分析Webサービスおよび粉末X線回折データベースの売上増
 - EViews新バージョンリリースによるアップグレード増



| トピックス

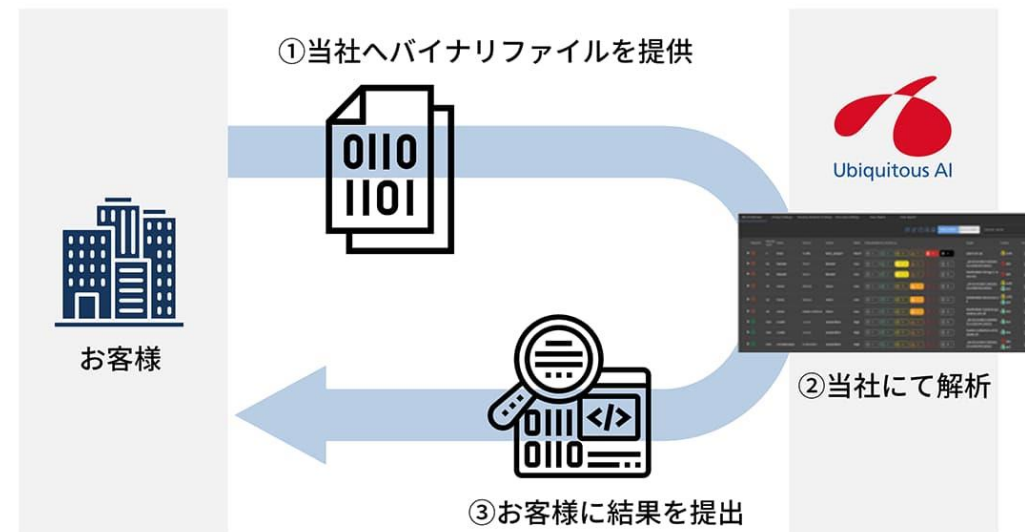
2024.7.10

SBOM作成サービスの提供を開始

顧客から提供されたサードパーティライブラリなどのバイナリファイルから
短期間、低価格でSBOMを作成

ソフトウェアのサプライチェーン管理の重要性の増加や開発におけるオープンソースソフトウェア（OSS）利用の増加、政府によるセキュリティ対策の推進などによって注目を集めるSBOM作成・管理をツール販売だけでなくサービスとしても提供

- 管理のための人的リソースおよびコストを削減
- バイナリ解析でOSSコンポーネントの脆弱性を検知
- 顧客は自社で解析ツールを購入する必要がなく、短期間でSBOMを取得することが可能



<https://www.ubiquitous-ai.com/products/codesentry/sbom.html>

賛同企業・団体：**88** (2024/9/30現在、HEXAGON発表2022/6/22 ~ 27ヶ月、一部連携団体含む)

紹介による良い「ご縁」のつながり

販売連携・事業連携
共同開発

資金調達・出資機会紹介

スタートアップ間連携

スタートアップ向け
支援プログラム





Ubiquitous AI